

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	木村 栄美
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>本年度の主な活動は、次世代研究プロジェクト採択課題の次世代研究連携総括型プロジェクト「交差する「親密圏・つなぎ合う「公共圏」としてのフィールド：調査者と協力者、異なるポジショナリティ間の交渉の場からの考察」に参加し、異分野間における研究の在り方を追考した。研究テーマとしては、『河内屋可正旧記』をベースに、これまで関わっていた河内における一村落を採り上げ、農業の在り方、嗜好品、人との関係性に注目しながらその内容を分析するとともに、文献資料、絵画資料、フィールドワークにおける調査から総合的に考察し、フィールド調査中心の研究手法との相違点、共通する問題点を採り上げ、研究視野を広げる試みを行った。文化史的視点における本研究は、研究視点も社会学とは異なっている。しかし、資料を収集する、という点において研究者はフィールドワーカーであり、文献の筆者は対面者である。それは、時空を超えたフィールドワークと言えよう。ただ本研究の問題点としては、過去を扱う、という点において、文献資料は語りかけることはなく、動くものではない。また、文献に書かれていることが全て正確なわけではなく、形がなければそれは存在していないため、立証できないという短所がある。本研究はまだ考察段階で十分な成果は出せていないが、グローバル COE は本年度で終了するため、今後は残された課題を、別の形で継続させていく必要があるだろう。</p> <p>個人の研究としては、明代の淹茶法、すなわち現在の煎茶がいつ受容され、展開したのか、について解明することに取り組んでいる。本研究はまだ未解明であるが、その成果は、今後の近世初頭における茶室研究及び喫茶文化展開を明らかにする上でも、意義あるものと考えている。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本喫茶文化における陸羽・盧同の茶」 （茶の湯文化学会関連、2013 年 5 月 発表及び論文集掲載予定） 	